体験交流を通して学ぶ

オピニオン

人間関係と自然対応で生きる力を育む体験交流

東日本大震災から2年が経ち、死者、行方不明者、被災関連死者合わせて2万人を超え、いまだ仮設住宅や避難先での生活を余儀なくされている人は31万5千人にのぼる。福島第1原発も終息どころではない。復興のスピードが遅いと感じているのは私だけではない。被災地の一刻も早い復興を願うばかりである。

戦後68年目を迎え、唯一の戦争被爆国の日本がどうあるべきか、何をなすべきかが問われている。時と共に体験談を語る被爆者の高齢化は避けて通れず、生の声が聞ける時間が限られており、ヒロシマ・ナガサキの「今」に価値が高い。

我が国で唯一の地上戦の惨劇に見舞われた沖縄は、米軍基地問題やオスプレイの配備など、今なお戦後を引きずっていると言えよう。尖閣諸島や竹島などの領土問題が隣国との間で再燃し摩擦が生じている。さらには、北方領土問題や拉致問題も進展せず、年月が過ぎてゆくばかりである。

だからこそ、忘れても風化させてもいけない平和教育の重要性がさらに高まっている。そして、自然環境やエネルギー教育にもつながっている。TPPの話題がテレビや新聞で取り上げられ続けている。日本の産業の根幹を揺るがしかねない重大な事案である。

一方で、食の欧米化が進み、10年前と比べ魚類24%、果実17%、野菜6%とそれぞれ減少し、米の消費額がパンに負けたのである。日本の農山漁村が生産している物を消費する食文化の再構築なしに日本の未来はない。つまりは、食育、食農、魚食振興が極めて重要なテーマである。

学校教育現場でも、いじめや体罰の問題から不登校や自殺に発展するなどの課題が山積している。その多くの原因はコミュニケーション不足による人間関係構築能力不足である。

農山漁村での体験交流は多くの課題に対応する極めて有効な手立てである。日本の明日を担う青少年にほんものの体験交流から互いの心を高め、大きく逞しく生きる力を育む教育機会である。

この紙面で紹介する地域は安全で教育効果の高いプログラムや農林漁家生活体験（民泊）などのコーディネートをする行政や組織であり、修学旅行はもとより、宿泊研修や校外学習など、あらゆる教育機会に活用してほしい。

全国ほんもの体験ネットワーク　会長
体験教育企画　代表　藤澤安良

北海道・標津

知床の自然・産業・文化を体験―
北海道知床しべつ感動体験

北海道知床の南に位置する標津町（しべつ）は、人口約5600人、一衣帯水に北方領土「国後島」を望み、左には世界自然遺産の秘境知床半島が一望され、右にラムサール条約登録湿地に指定された野鳥の宝庫として名高い野付半島、背後には雄大な牧草地群が広がる大酪農郷が形成されるなど、風光明媚な地です。

北海道らしい雄大で恵まれた自然環境のもと、国内屈指の漁獲を誇る秋鮭やホタテ貝を主力とする漁業、これを加工原料としたイクラ、鮭加工、ホタテ製品などを製造出荷する水産加工業、広大な牧草地で約2万頭の乳牛により牛乳を出荷する酪農業を基幹とした「生産の町」です。

こうした基幹産業や恵まれた自然を背景に、都市住民との交流の活性化を図ろうと、漁協、農協、商工会、観光協会、旅館組合など20団体が連携し、エコツーリズム事業を展開しています。

来訪者からは、北海道らしい産業体験や自然体験が可能との評価を頂き、京都、大阪、東京、滋賀、神奈川など全国各地から、小学生から高校生、大学生など教育を中心に多くの皆さんを受け入れ、産業や自然を活用した、心のこもった地場産品活用メニューや体験食事、アットホームな雰囲気づくりでもてなしており、生徒の皆さんや先生たちにも大変喜ばれております。

体験プログラムは、食の安全、安心の食料生産プログラムによる交流体験活動が行われています。

プログラムは、地域の生活や産業、食や自然、歴史などの地域素材を活用したメニューとしております。

また、受け入れの対応では事前講習など受講した各分野での名人がガイドとなり体験交流活動が行われます。

宿泊施設は大規模な施設がないなど不利な点をプラスに転じ、小さな宿ならではの利点を生かして行う高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」を学習の場として活用、体験し、地域の人々との交流により学ぶことで、高い学習効果が得られると評価も高まってきており、近年は大学のフィールドスタディとしても活用されています。

また、日本で初めて実現した知床の大自然の中での忠類川フィッシングやイクラ作り、ホタテ貝の貝剥き体験などの食体験をはじめ、広大な牧草地で営まれる酪農業の体験コース（ファームステイ）、冬のスノーシュートレッキング、湿原カヌー体験や縄文文化学習を供給システム「地域ハサップ」の取り組みが契機となり活発化が図られました。

このシステムは、国内で初めてとなる漁獲、市場、加工、流通まで一貫して行う高度な衛生管理ならではの利点を生かし供給システム「地域ハサップ」の取り組みが契機となり活発化が図られました。

目的や日程、人員に沿った企画やスケジュールの提案もさせていただいており、提案から受け入れまで「標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会」（事務局＝標津町役場商工観光課）が責任をもって対応します。

羽田からは直行便でたったの90分、修学旅行でなければできない、貴重な時を豊かな自然と産業が調和した「交流のまち標津町」で過ごされてはいかがでしょうか。

大自然の中でカヌー体験

イクラもみ

広大な農場の一角で酪農体験

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
〒086-1632　北海道標津町北２条西１丁目１番３号
TEL 0153-82-2131　FAX 0153-82-1787
E-mail:kankou@shibetsutown.jp

岩手県・久慈市

久慈市は岩手県の北東部に位置し、西は日本一の白樺林や豊かなブナ林が連なり、そこから流れる清水は、リアス式海岸を形成する太平洋に注ぎ、美しい景色を魅せるとともに、おいしい海の幸を育てています。

広大な海と自然豊かな山々、日本短角牛、豊かな伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山、里、海のさまざまな体験を堪能できます。

また豊かなフィールドと人情味のある指導者のもとでの体験は、安心して心を開く環境を作っており、仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合うことができます。こうして新しい自分に気づき、豊かな心を育て、そしてきっと忘れられない体験になることでしょう。

いわて　くじし　こころの体験
白樺ゆれる　琥珀の大地　海女の国でこころの交流を

おすすめプログラム

農林漁家民泊体験

数人のグループで農林漁家に泊まり田舎暮らしを体験する民泊体験は、恵まれた自然環境や伝統、文化など、魅力ある地域資源を生かしたさまざまな体験を通じ、心と心の交流を深めることができます。（受け入れ人数：4～300人）

漁師体験

小型漁船に乗船し「カゴ漁」「刺網漁」を体験します。地元漁師の指導のもと船上から漁の様子を観察し、捕獲した魚は実際にさばくこともできます。

シャワークライミング

指導者のもとで、渓流を歩行で上流へと登っていきます。渓流は淵や瀬、滝など変化に富んでおり、予測できない環境の中を、流れに逆らってゴールを目指すうちに、協力することの大切さを感じられます。

そのほか、総延長6300㍍に及ぶ鍾乳洞の内間木洞窟探検、白亜紀の地層から琥珀を採掘する久慈琥珀採掘体験なども行えます。

心の通う民泊先での料理体験

小型漁船に乗船して漁師体験

渓流を歩行で登るシャワークライミング

内間木洞窟探検

ふるさと体験学習協会
担当者　高橋昭治
営業時間　8：30～17：15
〒028-8030　岩手県久慈市川崎町1-1
TEL 0194-75-3005　FAX 0194-75-3007
URL www.kuji-taiken.jp/

岩手県・陸中海岸

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任感」があります
大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

岩手県田野畑村は、陸中海岸国立公園の北部に位置し「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む、人口4千人弱の典型的な農山漁村です。

2011年3月11日に村を襲った大津波では、38人の死者行方不明者を出し、住み慣れた家、船や漁港施設、駅や学校など目の前から全てを奪い去りました。しかし、人的な被害が比較的少なかったのは、明治や昭和の大津波から語り継がれた教訓、そして日常の防災への意識や訓練によるものであり、これから先も農山漁村の伝承されていくことでしょう。

この地を訪れる学校の生徒にとって、悲しみや仮設住宅などでの不便な暮らしと向き合いながら生業の再興や復興へと歩む住民のたくましいこの姿は、どのように映り、何を感じ取り、いかに考えさせていくのでしょうか。

生徒自らが「生きる力」を身に付ける必要性を悟り、他の人間と「心の絆」でつながることの大切さについて考え、農山漁村の真の豊かさを五感で感じることができる学びの場所が今ここにあります。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れコーディネート組織として各種手続きや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速かつ柔軟に対応しています。また、各プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船上保安庁などとの連携訓練によって安全確保に努めています。

民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

宿泊ホテルが復旧再開

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は12年11月に復旧リニューアルオープン。津波への新たな安全対策を講じるとともに、セレモニーや屋内活動など多目的な活用が可能な交流センターもホテルに隣接整備されました。宿を出るとすぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムを組むことができます。

【おすすめプログラム】

サッパ船アドベンチャーズ

津波被災から即座に復興を果たし、今や地域観光復興の大きな牽引力として注目されます。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

郷土料理体験

元気かあちゃんの指導のもと、地元海産物や農産物を生徒が自ら調理して味わいます。食の安全性や大切さに対する意識が高まります。

大津波体験ガイド＆語り部

大震災により被災し仮設住宅などで生活している住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、今に至るまでの体験、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。

人気のサッパ船で漁業体験現場

ホテル羅賀荘

民泊家庭での夕食作り

大津波体験ガイド＆語り部

NPO法人　体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211　FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL http://www.tanohata-taiken.jp/